

平成 30 年度 財務レポート



公立大学法人 山陽小野田市立
山口東京理科大学

理事長あいさつ



公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学は、工学部「機械工学科」、「電気工学科」、「応用化学科」の3学科により、『理学の普及を以て国運発展の基礎とする』を建学の精神として掲げ、地方都市における落ち着いた教育環境のもと、学校法人東京理科大学との姉妹校関係を維持強化しつつ、理工系の基礎的知識と専門的な学術を教育・研究するとともに、地域に根差し、地域社会の発展に寄与する「地域のキーパーソン」の育成に貢献することを目的としています。

また、皆さまのお陰により平成30年4月には、山口県において長年にわたり大変期待されておりました薬学部が開設し、地域に愛される公立薬工系大学としてますます発展してまいりたいと願っております。

そのために教職員が一丸となって、戦略的かつ革新的な大学運営に努め、強固な財政基盤の構築を図るとともに、コンプライアンスを徹底することで、本学のステークホルダーである学生、御父母、市民の期待と信頼に応え、選ばれる大学づくりを進めています。

平成30年度の財務レポートをまとめましたのでご報告致します。

皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

公立大学法人山陽小野田市立
山口東京理科大学
理事長 池北 雅彦

目次

理事長あいさつ	1
決算総括	2
貸借対照表	3
損益計算書	4
キャッシュ・フロー計算書	5
行政サービス実施コスト計算書	6
決算報告書	7
平成30年度の主な取り組み	
教育に関する取り組み	8
研究に関する取り組み	10
地域貢献に関する取り組み	11

決算総括

平成 30 年度決算については、法人全体として 362,333 千円の当期総利益を計上しました。収入については、学生等納付金収入の増加や受託研究費等の外部資金獲得額の増加に加えて、施設整備事業のために目的積立金を取崩したこともあり、収入合計で当初予算比 430,250 千円の増加となりました。支出については、外部資金獲得に伴い研究に係る経費が増加したことに加え、目的積立金を財源とした施設整備事業を実施したことにより、支出合計で当初予算比 65,959 千円の増加となりました。

財務諸表相関図

貸借対照表 (P.3)

資産	固定資産	固定負債	負債
		流動負債	
	流動資産	資本金	純資産
		資本剰余金	
		目的積立金	
	現預金	当期末処分利益 (当期総利益)	

利益処分に関する書類 (P.4)

当期末処分利益(当期総利益)
利益処分量 目的積立金(積立額)

キャッシュ・フロー計算書 (P.5)

業務活動	(支出)	業務活動(収入)
財務活動	(支出)	財務活動(収入)
投資活動	(支出)	投資活動(収入)
	資金期末残高 (一部)	

損益計算書 (P.4)

経常費用	業務費	運営費交付金収益	経常収益
		自己収入等	
	一般管理費	臨時損失	臨時利益
	当期総利益	目的積立金取崩額	

行政サービス実施コスト計算書 (P.6)

損益計算上の費用	経常費用	(控除)自己収入等
		(差引)業務費用
	臨時損失	機会費用

行政サービス
実施コスト

損益外減価償却相当額
引当外退職給付増加見積額 等

貸借対照表

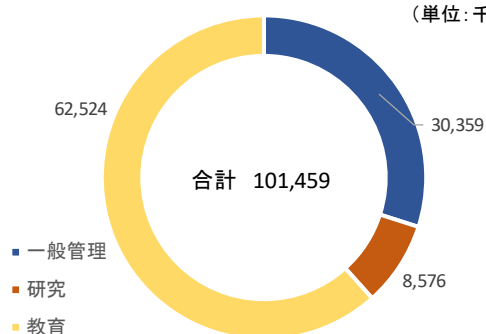
貸借対照表は、決算日（平成31年3月31日）時点における資産・負債・純資産を表示した、財政状態を明らかにするための報告書です。貸借対照表の負債・純資産はどのようにして資本を調達したかを表し、資産は調達した資本をどのように使用しているのかを表します。

（単位：千円）

区分		平成30年度 開始時	平成30年度 期末時	区分		平成30年度 開始時	平成30年度 期末時
資産の部	土地	756,000	816,130	負債の部	資産見返負債	800,844	851,911
	建物	2,773,339	2,622,337		長期リース債務	10,675	7,117
	構築物	28,455	31,335		固定負債合計 ④	811,519	859,028
	車両運搬具	3,124	2,453		運営費交付金債務	50	50
	工具器具備品	301,598	342,898		預り補助金等	0	424
	工具器具備品（リース）	4,608	3,502		寄附金債務	5,321	12,345
	図書	272,368	304,732		前受受託研究費等	0	2,048
	有形固定資産合計	4,139,492	4,123,387		未払金	361,076	291,891
	ソフトウェア	107,850	82,960		未払消費税等	47	2,627
	特許権仮勘定	653	653		リース債務	3,558	3,558
	無形固定資産合計	108,503	83,613		前受金	894	3,421
	長期前払費用	14,630	10,656		預り科学研究費補助金	2,980	9,708
	長期性預金	0	100,000		預り金	13,216	19,049
	投資その他の資産合計	14,630	110,656		流動負債合計 ⑤	387,142	345,121
	固定資産合計 ①	4,262,625	4,317,656		負債合計 ⑥(④+⑤)	1,198,661	1,204,149
純資産の部	現金及び預金	1,111,161	1,005,661	純資産の部	資本金（地方公共団体出資金）	3,785,842	3,785,842
	その他未収入金	2,629	10,297		資本剰余金	▲ 353,099	▲ 441,597
	前払費用	38,503	46,631		利益剰余金	783,514	831,851
	流動資産合計 ②	1,152,293	1,062,589		純資産合計 ⑦	4,216,257	4,176,096
資産合計 ③(①+②)		5,414,918	5,380,245	負債・純資産合計 ⑧(⑥+⑦)		5,414,918	5,380,245

工具器具備品目的別内訳

（単位：千円）



平成30年度に取得した工具器具備品の目的別の内訳です。取得価額を表し、減価償却前の金額を記載しています。

損益計算書

(単位:千円)

区分		平成30年度
経常費用	教育経費	261,422
	研究経費	122,950
	教育研究支援経費	75,603
	受託研究費	46,489
	人件費	1,032,831
	業務費合計	1,539,295
	一般管理費	665,196
	雑損	1,440
経常費用合計①		2,205,931
経常収益	運営費交付金収益	1,465,369
	授業料収益等	690,997
	受託研究等収益	47,210
	寄附金収益	6,953
	補助金等収益	18,806
	資産見返負債戻入	95,062
	財務収益	12
	雑益	18,181
経常収益合計②		2,342,590
経常利益③(②-①)		136,659

損益計算書は、ある一定期間（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）の業務活動の成果を表した報告書です。経営の理念に基づいてサービスを社会に提供し、満足していただいた活動の結果を利益（又は損失）として計算したものです。

人件費内訳

役員人件費 : 30,255千円
教員人件費 : 753,039千円
職員人件費 : 249,537千円

授業料収益等内訳

授業料収益 : 530,282千円
入学金収益 : 114,520千円
検定料収益 : 45,592千円
手数料収益 : 603千円

臨時利益④	9
臨時損失⑤	9
当期純利益⑥(③+④-⑤)	136,659
目的積立金取崩額⑦	225,674
当期総利益⑧(⑥+⑦)	362,333

利益処分に関する書類（要約）

(単位:千円)

当期末処分利益	
当期総利益	362,333



(単位:千円)

利益処分額	
積立金	2,187
教育研究の質の向上及び施設準備積立金	360,146

地方独立行政法人法第40条第3項により、設立団体(山陽小野田市)の長の承認を受ける必要がある金額です。

キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書は、一会計期間の収入（キャッシュ・イン）と支出（キャッシュ・アウト）を捉え、キャッシュの流れを計算して表示する報告書です。

（単位：千円）

区分		平成30年度
支出	原材料、商品又はサービスの購入による支出	▲ 475,298
	人件費支出	▲ 1,038,933
	その他の業務支出	▲ 609,505
収入	運営費交付金収入	1,542,915
	授業料等収入	716,566
	受託研究費等収入	49,258
	補助金等収入	19,230
	寄附金収入	13,977
	その他の収入	13,644
	預り金の純増減額	12,562
	業務活動によるキャッシュ・フロー合計 ①	244,416
支出	定期預金の預入による支出	▲ 120,000
	固定資産の取得による支出	▲ 246,370
収入	利息および配当金の受取額	12
投資活動によるキャッシュ・フロー合計 ②		▲ 366,358
支出	ファイナンス・リース債務の返済による支出	▲ 3,558
財務活動によるキャッシュ・フロー ③		▲ 3,558
資金増加額 ④(①+②+③)		▲ 125,500
資金期首残高 ⑤		1,111,161
資金期末残高 ⑥(④+⑤)		985,661

資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳

現金及び預金	1,005,660,853 円
定期預金	▲ 20,000,000 円
資金期末残高	<u>985,660,853 円</u>

重要な非資金取引

工具器具備品	7,086,088 円
図書	47 円
合計	<u>7,086,135 円</u>

資金運用について

当法人は、資金運用については地方独立行政法人法第43条の規定に基づき、預金、国債、地方債及び政府保証債等に限定しております。

資金運用に当たっては、現状では預金により運用しております。

ファイナンス・リース

①ソフトウェア 14,715千円
（平成28年から6年契約
年間 2,452千円の支出）

②工具器具備品 5,530千円
（平成29年から5年契約
年間 1,106千円の支出）

行政サービス実施コスト計算書

(単位: 千円)

区分		平成30年度
業務費用	業務費	1,539,295
	一般管理費	665,196
	雑損	1,440
	臨時損失	9
	損益計算上の費用合計①	2,205,940
	授業料等収益	▲ 690,997
	受託研究等収益	▲ 47,210
	寄附金収益	▲ 6,953
	資産見返運営費交付金等戻入	▲ 13,259
	資産見返寄附金戻入	▲ 37,913
	雑益・臨時利益等	▲ 11,932
	(控除) 自己収入等合計②	▲ 808,264
業務費用合計③(①+②)		1,397,676
損益外減価償却等相当額④		176,821
引当外賞与増加見積額⑤		23,260
引当外退職給付増加見積額⑥		17,218
機会費用	国又は地方公共団体財産の無償又は減額された使用料による賃借取引の機会費用	354,248
	地方公共団体出資の機会費用	0
	機会費用合計⑦	354,248
行政サービス実施コスト(③+④+⑤+⑥+⑦)		1,969,223

行政サービス実施コスト計算書は、本法人が業務を運営するにあたって、市民のみなさまに負担いただいているコストを表す報告書です。業務費用に加えて、機会費用等（山陽小野田市の資産等を利用したことによる市民のみなさまにとっての負担額など）を加算したものから、業務運営により得られた自己収入等を控除して算出しています。

費用	機会費用 損益外のコスト
自己収入	行政サービス実施コスト

行政サービス実施コスト計算書における機会費用の計上方法

(1) 国又は地方公共団体財産の無償又は減額された使用料による賃借取引の機会費用の計上方法

山陽小野田市から、大学の建物等について無償貸与を受けており、これらについては、山陽小野田市における取得原価を基礎とした定額法による減価償却額相当額を計上しております。また、学外に設置された薬草園に係る使用料については、山陽小野田市都市公園条例に基づき算定した額を計上しております。

(2) 地方公共団体出資の機会費用の計上方法

機会費用の算定に係る利回りについては、令和元年5月29日付け事務連絡「地方独立行政法人における行政サービス実施コスト計算書等の機会費用算定の取扱いについて（留意事項）」（総務省自治行政局行政経営支援室、総務省自治財政局公営企業課、総務省自治財政局財務調査課）及び平成28年4月25日付け事務連絡「『マイナス金利付き量的・質的金融緩和』の導入を受けた平成27事業年度財務諸表における行政サービス実施コスト計算書の機会費用算定の取扱いについて（留意事項）」（総務省自治行政局行政経営支援室、総務省自治財政局公営企業課、総務省自治財政局財務調査課）に基づき、0%で計算しております。

決算報告書

第3期(平成30年度)

(単位:千円)

区分	予算額	決算額	差額 (決算-予算)
収入	運営費交付金収入	1,542,915	1,542,915
	補助金収入	2,460	25,501
	学生等納付金収入	676,760	716,952
	財務収入	3	12
	雑収入	10,358	11,834
	受託研究費等収入	11,700	49,258
	寄附金収入	0	13,977
	目的積立金取崩額	0	313,997
収入合計①		2,244,196	2,674,446
支出	教育経費	289,469	211,538
	研究経費	89,549	103,486
	教育研究支援経費	168,923	162,285
	受託研究費等	11,700	47,210
	寄附金	0	6,953
	人件費	1,089,959	1,015,791
	一般管理費	584,596	762,892
	予備費	10,000	0
支出合計②		2,244,196	2,310,155
収入-支出 (①-②)		0	364,291

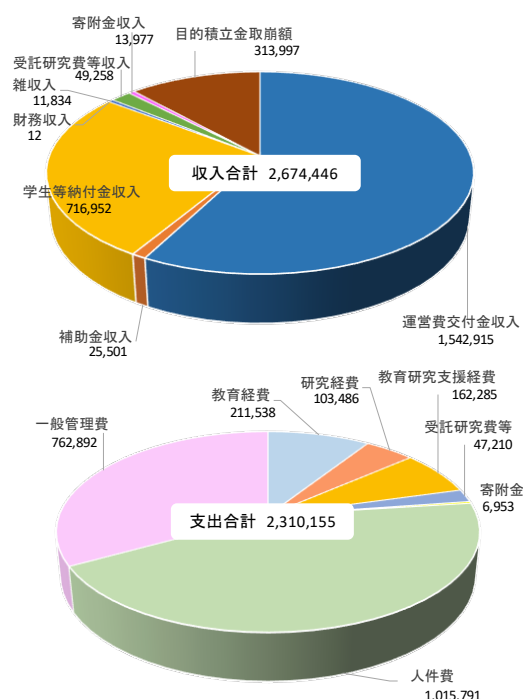
入学金収入の増加

外部資金獲得額の増加

目的積立金を取崩

外部資金獲得額の増加に伴い、
研究費の支出も増加

目的積立金を取崩し、
施設整備事業を実施



本学の収入には、①市等からの収入（運営費交付金など）、②自己収入（学生等納付金、補助金、受託研究費、寄附金など）、③その他の収入（財務収入など）があります。

中でも、自己収入は大学の経営努力によって大きく変動します。本学では、外部資金獲得に向けた取り組みなどを通して、さらなる自己収入の増加を目指しています。

平成 30 年度の主な取り組み

教育に関する取り組み

山口県内初の薬学部の開設

平成 30 年 4 月から新入生を迎え、山口県内初の薬学部を開設いたしました。今後、大学と地域が一丸となって山口の地に、日本の薬学部のモデルになるような特色ある薬学部を創り、「薬学をとおして人の健康を守る」ことを目指して、地域の発展、ひいては日本の発展に貢献していきたいと思えます。



薬学部附属江汐公園薬用植物園が開園

山陽小野田市が運営する自然公園「江汐公園」内に薬学部附属の薬用植物園の整備を行い、10 月 25 日（木）に開園記念式を執り行いました。この度整備された薬用植物園は、3,000 m²の円内に約 400 種 1 万株の薬用植物が栽培され、大学構内の薬用植物園とともに学生の教育研究施設として利用するほか、薬草観察会など市民の生涯学習の場としても利用します。



山口県薬剤師会、山陽小野田薬剤師会と連携協定を締結

知的・人的資源の交流及び活用を図り、地域の医療・保健・福祉の発展及び向上に寄与することを目的として、平成 30 年 10 月 31 日（水）に一般社団法人山口県薬剤師会と、平成 30 年 12 月 19 日（水）には一般社団法人山陽小野田薬剤師会と包括連携・協力に関する協定を締結しました。

また、薬剤師会員・学生の相互交流を進め、薬学部性のほぼ全員が山口県薬剤師会（日本薬剤師会）の学生会員に加入しています。2019 年には全国から約 9,000 人を超える薬剤師が集まる「第 52 回日本薬剤師会学術大会」が山口県内で開催、先端的学術の取り組みが紹介される貴重な研修機会となるため、引き続き本学も全面的に協力していただきます。



山口県薬剤師会との連携協定締結



山陽小野田薬剤師会との連携協定締結

第16回全日本学生フォーミュラ大会に参戦

平成30年9月4日（火）～8日（土）に学生が自ら構想・設計・製作した小型レーシングカーによりものづくりの総合力を競う、「第16回全日本学生フォーミュラ大会」が静岡県小笠山総合運動公園で開催されました。92チームがエントリーする中、本学の学生フォーミュラチーム（SOCU Formula）はガソリン車部門に「アサギマダラ7号」で7年連続出場しました。

技術検査や騒音などの「車検」、コストやデザインの審査、プレゼンテーションを行う「静的審査」、実際にコースを走り、走行性能や耐久性、燃料消費量などから評価する「動的審査」などをクリアし、3年連続で完遂・完走を果たしました。また、昨年の順位を大幅にあげ、総合22位という好成績を残すことができ、JAMA（日本自動車工業会）会長賞も受賞しました。



enPiT ビジネスシステムデザイン分野ワークショップにて、全国に活動成果を披露

本学の学生グループ「enPiT 理科大チーム」が個人経営店で電子サービス券を利用・管理できるようにするスマートフォンアプリ「Uni-ca」を開発し、2月21日（木）に茨城県の筑波大学で開催された「ビジネスシステムデザイン分野ワークショップ」に参加、全国の地区代表の10グループとともに活動成果を披露しました。

作ったのは工学部電気工学科で情報技術を学んでいる3名の学生で、国の情報技術者育成事業（enPiT）として、昨年5月から開発に着手しました。学習会への参加を重ね、効率よくプログラミングをする技術、市場調査の手法などを磨き、ユーザーから収益を得るためのビジネスモデルづくりからスタートし、大手チェーン店などで電子版のお金やサービス券で支払うキャッシュレス決済が広がっていることに着目し、個人経営店も利用・管理できる「Uni-ca」の開発に至りました。



魅力ある大学づくりに向けて



学生談話室「パルテール」

① 志願者情報

平成31年度の入学選抜試験において、入学定員工学部200人に対して1,545人、薬学部120人に対して1,103人の志願者がありました。

② 学生満足度

平成30年度山口東京理科大学大学生生活意識調査での設問「全体的にみて本学の学生生活に満足していますか」に対して、87%の学生より「とても満足している」、「まあ満足している」の回答をいただきました。

③ 就職率

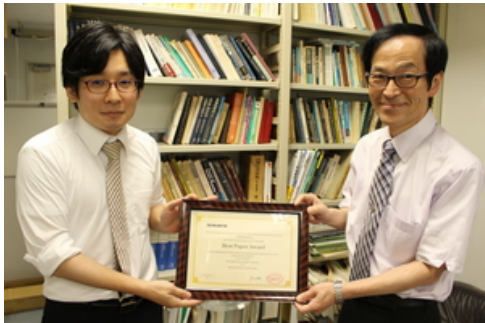
平成30年度の学部卒業者97%、修士課程修了者100%という、高い就職率を達成することができました。

研究に関する取り組み

本学研究員 ICMPM2018 にて最優秀論文賞を受賞

平成 30 年 7 月、韓国にて開催された ICMPM2018 (金属材料プロセスと製造に関する国際会議) で、本学ポスドクトラル研究員が「Best Paper Award (最優秀論文賞)」を受賞しました。

- 受賞者 工学部機械工学科 PD 研究員 井尻 政孝
工学部機械工学科 教授 吉村 敏彦
- 発表題目 超音波照射下の水中高速噴流を用いた新しい技術による Cr-Mo 鋼の表面改質



本学薬学部教員が第 60 回日本平滑筋学会にてポスター賞を受賞

平成 30 年 8 月に開催された第 60 回日本平滑筋学会にて、本学薬学部教員が「ポスター賞」を受賞しました。

- 受賞者 薬学部 薬学科 教授 百瀬 江
- 発表題目 「Ca²⁺感受性の亢進を通じた平滑筋収縮制御における p63RhoGEF の機能解析」



本学学生が材料技術研究協会 International Student Symposium2018 にて会長特別賞を受賞

平成 30 年 8 に開催された材料技術研究協会 International Student Symposium2018 で、本学学生と教員が「会長特別賞」を受賞しました。

- 受賞者 工学部 機械工学科 4 年 橘 春貴
工学部 機械工学科 助教 田中 公美子
工学研究科工学専攻 修士課程 1 年 下西 大地
工学部 機械工学科 吉村敏彦研究室 中川 大典
工学部 機械工学科 教授 吉村 敏彦

- 発表題目 「キャビテーション加工を施したステンレス鋼の減衰能特性評価」

- 受賞者 工学部 機械工学科 4 年 河本 遥平
工学部 機械工学科 助教 田中 公美子
工学部 機械工学科 4 年 達川 皓介
工学部 機械工学科 吉村敏彦研究室 中川 大典
工学部 機械工学科 教授 吉村 敏彦

- 発表題目 「メカノケミカル機能性キャビテーション加工による熱硬化性樹脂系 CFRP のリサイクル性に関する研究」



学生と青年会議所による駅舎リニューアル

小野田青年会議所は、創立 55 周年記念事業として本学最寄り駅である雀田駅と周辺の環境整備に取り組み、8 月 1 日に完工式が同駅で開催されました。

今回の小野田青年会議所による雀田駅改修事業は、本学のオープンキャンパス（8 月 4 日、5 日）までに街灯の設置、屋根付き駐輪場の整備が完成するように進められ、市民や企業、団体から約 300 万円の寄附を集めて実施され、本学の学生有志 25 人も駅舎を塗り替える作業にボランティアで参加するなど、産官学民一体となり進められました。

新しくなった雀田駅は、本学の最寄駅にふさわしく、本学のスクールカラーでもあるだいたい色が目を引く外観へとリニューアルしました。



●Before



●After

薬学部生が「山口ゆめ花博」で薬草を紹介

平成 30 年 9 月 14 日（金）から 11 月 4 日（日）にかけて、山口きらら博記念公園を会場に「山口ゆめ花博」が開催されました。これは、国内最大級の花と緑の祭典である「第 35 回全国都市緑化やまぐちフェア」であり、1000 万の山口県の花が咲き誇る会場で、1000 を超えるイベントが繰り広げられました。開催 52 日間で約 136 万人が訪れるなど、大変な賑わいとなりました。

「ゆめ花博」の花の谷ゾーンにある「学びの花庭」に、本学薬学部の学生有志が薬草のプレートを出展しました。プレートには、薬用植物の解説とクイズが書かれ、プレートをめくるとクイズの答えが書いてあります。開催期間中、多くの来場者の皆様に薬草のクイズを見ていただきました。s

また、10 月 13 日（土）には、森の谷の特設ステージにて開催された「山陽小野田市の日」のイベントの中で、本学の「学生による薬草クイズ大会」が催されました。クイズの正解者には素敵な賞品がプレゼントされ、地域のみなさんのたくさんの笑顔が見られました。



地域貢献に関する取り組み

学生消防団員辞令交付式

学生消防団員辞令交付式が行われ、5名の学生が学生消防団員に任命されました。高齢化などで定員割れが続く消防団の活動を若い力で活性化させようと、本学で学生消防団員を募り、この度本学学生が消防団に入団しました。

新任者研修や応急手当、救命の講習を受講し、随時要請のあった救命講習への出向、大学内にポスターの掲示及びパンフレットの配布や、大学祭である竜王祭にて学生消防団員の募集活動を行うなど、市内の消防への関心を高めるため、地域防災の担い手として様々な活動をおこなっていきます。



復活！住吉まつりに参加

五月晴れのもと、今年も地元の祭り「復活！住吉まつり」が行われました。

太平洋セメント様保有の「龍」を本学の学生たちががざして路地を練り歩き、メインステージで舞う「龍舞」は、この祭りになくてはならないものとなりました。また、学生や教職員が科学の紹介を行うブースを設け、子供達や市民の皆さまに学びの成果を知っていただく好機となりました。



かがく博覧会

地域貢献活動として、おのだサンパークを会場に山陽小野田市・山口東京理科大学連携協議会による「かがく博覧会」を開催し、延べ3,178人にご参加いただきました。

市内の小・中学生の科学作品や、高校、大学、企業による実験ブースなどが出展され、科学を学ぶ楽しさや感動を体験できるイベントとなりました。



かがく博覧会での体験コーナー

学生ボランティアが海岸清掃エコツアーに参加

山陽小野田市の海岸を始め、山口県内の海岸の清掃を行う、海岸清掃エコツアーに、本学の工学部、薬学部の学生ボランティアが参加しました。この海岸清掃は、他大学の学生と交流しながら、海岸漂着物の現状を知り、ごみ減量や分別・リサイクルについての理解を深め、環境にやさしいライフスタイルについて考える取り組みです。

ペットボトルやビニール袋など流れ着いたものを拾い集める海岸清掃の実施とともに、漂着ペットボトルの国別調査やゴミの計量などを行いました。今後も海岸清掃をはじめとした地域活動に積極的に参加してまいります。

